

[様式14]

(対象事業：2・ミュージアムを核とした地域文化資源の整備・活用に関わる事業)

事業名：休・廃校活性化プロジェクトin布

事業者名：高知県立美術館

連携事業館名：

住所：高知市高須353-2

TEL：(088)866-8000

FAX：(088)866-8008

HPアドレス：

<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~museum>



外観写真

①施設概要

高知県立美術館は平成5年に開館した、高知県唯一の県立美術館。展覧会の開催の他、普及事業や併設のホールでの映画、演劇公演、演奏会など多彩な芸術事業を展開している。本事業の会場となったのは平成17年3月に生徒数減少のため休校となった土佐清水市立布中学校。

②事業の意図目的

- ・ 美術館から遠隔地の方にも美術館事業を知ってもらう
- ・ 地域資源（物、人など）の再発見と活用
- ・ 地域の人材育成とアウトリーチ活動の拠点づくり

③事業概要

休校中の校舎を会場に、様々な事業を開催。ただ、事業を遠隔地で開催する、というだけでなく、地域住民と協議したり、協力を仰いだりしながら準備、運営を行っていった。

地区の植物をつかった草木染め講座や美術室でのワークショップ、音楽室での演奏会、体育館での展示などが好評であった。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（ ）

作成した報告書等

ビデオ（ イベント当日の記録写真を編集したDVD ）

冊子（ イベントの記録・資料集 ）

その他（ 宣伝用ポスター、チラシ ）

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 約1,000 人

内 訳 1日目（11月3日）約450人 2日目（11月4日）約650人

(1) 事業の実施状況について

夏ごろより、地区の区長や婦人会に、開催の協力や相談を働きかけるとともに、地区外の方々にもボランティアとしての参加を呼びかけた。

10月半ばに学校の一斉清掃を行った際には、地区住民が朝の6時から駆けつけ、窓拭きや草刈、床掃除など、学校をキレイにしてくださった。

11月3日(土・祝)の午前10時に開会式。地元のアマチュア吹奏楽団である櫻・ウィンド・オーケストラ(以下SWO)のファンファーレにより式を始める。藤田直義高知県立美術館長が開会のあいさつを述べ、続いて西村伸一郎土佐清水市長にごあいさついただいた。SWOが布中学校校歌を演奏、地区の子どもたちの手で布中の扉が開かれ、イベントの始まりとなった。

校庭では婦人会の軽食やコーヒーマーケットの他、地区の草木(さくらなど)を用いた草木染め講座が実施された。

校舎内の各教室でもイベントを実施。美術室でのワークショップは、プレス機を用いた「版画ってなんだろう」(講師:植野智子さん)と、工作講座「キラキラ万華鏡をつくろう!」(講師:井関さおりさん)がともに、定員を超える人気となった。特に「万華鏡」の講座は1度でさばききれず、急遽2回に増やし対応した。



↑〈草木染め〉

音楽室では、ピアノとヴァイオリンのミニ・コンサートを開催。当初はぼつぼつだった観客も、

窓から流れるメロディーに惹かれて訪れる方で、少しずつ増えていった。

CMなどでよく耳にする曲の演奏や演奏者の軽妙なお話など、小さいながらも楽しい演奏会となった。

体育館では草木染め講座の講師である山本眞壽さんの作品展示と講演会が行われた。



お昼時にあたる正午からの1時間は、SWOによる

↑〈キラキラ万華鏡をつくろう!〉

「青空コンサート」と地元の子どもたちによる郷土芸能の演舞披露が行われた。SWOは高知県西部地方を中心に活動する吹奏楽団であり、メンバーには高校生もいる。スーザ作曲「美中の美」から「宇宙戦艦ヤマト」や「時代劇メドレー」まで、幅広い方に楽しめる曲を演奏してくださった。

子どもたちによる郷土芸能は、女兒5人による「ウラヤスの舞」と男児2人による「サアライ」の2種。「サアライ」は独特の化粧を施した牛若丸と弁慶に扮した男児(かつては青年が演舞していた)が口上を述べ、立ち合った末、最後には掛け声とともに太刀を放り投げる、という豪快なものであり、他所でみられないといわれている。多くの観客が来場したことから、予定していなかった「花取踊り」を翌日は実施することを地区長が提案した。

11月4日(日)

2日目の目玉イベントは体育館での移動美術館「コレクション展 in 布中」。これは、高知県立美術館の学校移動美術館「ハロー！ミュージアム」の一環として開催した。県立美術館のマルク・シャガールなどが展示されるということで、期待を集めていたようである。オープンにあわせ、前日のミニ・コンサートで演奏してくださった武中淳彦氏と川村香絵氏が特別演奏、華を添えてくださった。学芸員によるギャラリートークも開催され、好評であった。

美術室でのワークショップは2日目も開催。地元アーティスト（隣市の宿毛市在住）の奥田剛・陽子夫妻（屋号は「創って画ッハッハ」）による「美術で友達できるかな」。

これは、美術をコミュニケーション・ツールとしてとらえ、絵を描いたり、人形を作ったりすることを通じて、参加者同士のつながりをつくることを目的としている。初めて出会った子と友達になれた、とアンケートに書いている子もいた。

校庭では、昨日同様にSWOによる青空コンサート、子どもたちの郷土芸能演舞が昼時に行われた他、地区のお住まいの方による「布ぞうり」づくりの教室も開かれた。チラシを作成した後に申し出があり、広報宣伝が十分にいきわたらず、参加者が少なかったのが残念であった。



↑〈美術で友達できるかな〉

午後4時から閉会式。島田京子高知県文化財団理事長よりあいさつの後、布中最後の校長であった沢近充典氏にもごあいさついただく。開会のときと同じく、SWOの演奏による校歌、子どもたちの手で布中の扉が閉じられた。最後に、SWOが来年にもつながっていくようにと行進曲風の曲を演奏してくださり、2日間にわたる一連の事業は終了した。

その後、年末から2月頃にかけて、地区住民にアンケート調査を実施し、今年度の反省や来年への準備に備えた。

3月21日に3地区の区長、婦人会、女性学級、ボランティア、土佐清水市教育委員会など関係者に集まっていただき、今年度の反省事項や来年度への抱負を話し合った。

(2) 地域との連携について

一般ボランティア、地域住民、自治体と協力、連携して事業にあたった。

元々、美術に関心があり、自分たちの地域でも何かしたいと考え、18年度に開催した「市民とつくる展覧会」に参加してくれた地域住民が中心となり、県立美術館をフォローしてくれる部分も多かった。地区行事の日程や地域の動きなど、こまごまとした情報を伝えてくれたおかげでスムーズに動くことができた面も多々あった。

区長や婦人会との相談が主であったが、一般の住民も、学校清掃のため、雑巾や草刈機などを持参し総出で手伝ってくださり、広い校舎・校庭・体育館も2時間ほどできれいにすることができた。

事業実施では、前日の準備から当日のイベントまで協力していただいた。開会・閉会時の子どもたちの手配をPTAが中心になって行った他、食事をとる場所が近くでないことから地区の婦人会、女性学級が軽食の調理、販売を行ってくださった。

駐車場には近くの布小学校運動場をお借りすることができ、車の整理には土佐清水市教育委員会職員があたってくくださった。

土佐清水市・土佐清水市教育委員会は本事業の後援として、市報への情報掲載を初め、地区との話し合いや小・中学校への宣伝にも同行、事業当日の地区内の巡回バスの提供と運転もしてくくださった。

(3) 成果物について

広報宣伝のためのポスター、チラシを作成した。

本事業の概要を手軽に知ることができるように、当日の事業を記録した写真を編集したDVD(5分程度)と報告書を作成した。DVDはビジュアル中心、報告書は資料中心と役割を分け、音楽会での演奏曲や展示作品名は報告書に掲載している。

(4) 参加者の反応

初めての事業のため、当初は地元関係者の反応はにぶかったが、準備が進むにつれて段々と乗ってきたようである。

来場者の感想は概ね好印象であったと思われる。美術館から遠く、文化施設も少ない地域のため、ワークショップなどに参加する機会があまりないため、非常に関心が高く、参加者も多かった。アンケート回収は少なかったが、来年も開催してほしいという意見もみられた。特に、草木染め講座への満足度が高く、続けて実施してほしい等の意見もあった。

協力者側となる布地区住民の反応も概ねよく、来年も開催することには賛成の意見が多いと考えている。また、事業実施後にお会いした地区の住民からも「来年はもっと早くから準備をしよう」などと前向きな声が聞かれた。婦人会からも、販売物の種類を多くすることや、地区内のお店にも協力してもらおう、という意見が出された。

布地区外から参加したボランティアからも来年の事業アイデアが出されるなど、2回目以降も積極的に参加してくれるような意志を感じた。

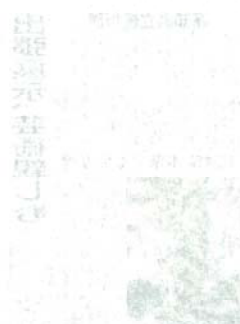
また、本事業の運営スタッフらが中心となって、西部地区での事業展開をめざすアート・グループも結成され、自主的な活動をめざして本格的に動き始めている。

草木染めにアシスタントとして参加した人たちの一部も、自分達で道具を揃えたり、染めの練習を行ったり、と草木染めのグループ活動をめざした動きを始めている。

土佐清水市・土佐清水市教育委員会も本事業とそこから派生した事業には積極的に関わってくれるようになり、先の草木染めグループにも学校利用の便宜をはかってくれているようである。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

- ・ ワークショップや演奏会など、実施事業を増やすことができ、来場者への満足度を高めることができた。
- ・ 印刷物の数量を通常よりも増やすことができ、かつ広範囲への配布（新聞折込の実施）が可能になったため、広報効果をあげることができた。
- ・ 地区住民の意識がかわってきている。
- ・ 土佐清水市、土佐清水市教育委員会と協力して事業を行ったので、連携が強化された。次年度以降も本事業以外のアウトリーチ事業の実施について検討をしており、結果的に美術館から遠隔の地域住民へのサービス向上につながっていくと思われる。
- ・ 運営に参加してくれた人たちが、事業以後も自主的な活動を続けるようになり、西部地域での芸術文化事業実施をめざすグループもできつつある。
- ・ 当初よりも規模を大きくして実施することができたので、マスコミにも取り上げてもらえ、事業実施後にも「休・廃校の活用」に関する調査依頼があり、地域活性化のヒントを広く提示できた。



(6) 新聞記事等
○新聞記事



■読売新聞（大阪版）平成 19 年 10 月 28 日 朝刊 地方面



■高知新聞 平成 19 年 11 月 6 日 朝刊 地域面



■茨城新聞 平成 19 年 12 月 4 日 朝刊 生活面 *共同通信の配信による

同様の新聞記事

■高知新聞 平成 19 年 11 月 1 日 朝刊 地域面

○テレビ、関連誌等
テレビ

- ・ KUTV テレビ高知「イブニング KOCHI」午後 6 時 16 分放送（約 2 分）
タイトル「休廃校施設でアートイベントを！」
- ・ KUTV テレビ高知「ピンポン！」内で放送したお昼のニュース（約 2 分）
タイトル「芸術で地域を活性化」

関連誌等

- ・ 「K+(ケープラス)」Vol. 11 「記者ナビ」
高知新聞社発行 平成 19 年 11 月 22 日発行
- ・ 市広報「広報とさしみず」平成 19 年 12 月号
土佐清水市 平成 19 年 12 月発行
- ・ 「文化庁月報」2 月号 (No. 473) 「いきいきミュージアム」
株式会社ぎょうせい発行 平成 20 年 2 月 25 日発行
- ・ 「高知県立美術館ニュース」Vol. 58
高知県立美術館発行 平成 19 年 10 月 10 日発行
- ・ 「高知県立美術館ニュース」Vol. 59
高知県立美術館発行 平成 20 年 1 月 10 日発行